

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 大分東 高等学校	
学校教育目標	生徒一人ひとりを大切に、校訓「自律・努力・友愛」のもと、「社会的・職業的な自立」を促し、社会や地域の一員として、主体的に考え行動できる力を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 現状を踏まえた学校教育目標が設定され、安定的な学校運営がなされていることは高く評価できる。 校長先生の先導により持続的な教育活動が展開され、生徒の安心・安全な学校生活が保障されている。 生徒の多様な学習ニーズを踏まえた放課後学習が導入されており、個に応じた教育活動が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌組織の効率的な運営を目指し、業務の精選・統合を進めることで、より安定した学校運営を推進する。 働き方改革として原則一人1分掌で取り組むことで、生徒と向き合う時間を確保し、より安全安心な学校生活の保障に努める。 体験的な学習活動の場面(社会と触れる機会)をこれまで以上に設定し、社会人基礎力や人間力の向上を図り、即戦力としての資質の涵養を図る。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 PDCAサイクルによる改善を繰り返すことで、生徒・保護者の学校満足度が向上していることは評価できる。 放課後指導による学力保障の取組は高く評価でき、今後の取組の拡大が期待される。 総合的な探究の時間において、地域課題解決とキャリア探究の学びの両方が展開されている点は評価できる。 アンケート等のデータを活用することで、活動による成果と課題が的確に把握されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校満足度の向上について、生徒アンケートや授業改善アンケート、保護者アンケートを学期ごとに実施し、課題を明確にすることで、関係分掌ごとに課題改善について取組を推進し、PDCAサイクルの充実を図る。 ER・ESの充実を図り、国公立私大の4年制大学進学者数の増加、学びなおしによる基礎学力の確実な定着、学習習慣の確立を図る。 総合的な探究の時間において、企業や大学等でのフィールド調査など、体験的な学習活動をこれまで以上に設定することで、コミュニケーション力をはじめ、思考力、表現力などのさらなる向上に努める。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) 生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 農業大学校や地域大学との一定の連携が図られ、地域リソースを活用した「開かれた学校」が実現できている。 地域との連携による地域活性化の起爆剤として、例えば、農業クラブによる地域貢献等の実践が期待される。 学校HPは外部団体からも評価を受けるほど充実している。今後はSNSによる情報発信の充実が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での販売会やイベントへの積極的な参加を地域と触れ合う機会として、生徒が活躍し成長できる場として設定し、地域貢献の意識向上に努める。 農業大学校や振興局等との連携の強化により、専門的な知識や技術の習得をはじめ、次代の農業を担う人材としての資質を養う。 生徒会を中心として、SNSやHPなど、中学生やその保護者をターゲットして情報発信を強化し、志願者の確保に努める。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつなげられているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 授業改善に積極的に取り組んでおり、教員と生徒が求める授業の水準が適切に設定されている。 生徒の授業に対する満足度は高いものがあり、授業改善に向けた先生方の意欲の高さが伺える。 特に、農業科の実習については、生徒が主体的に取り組んでおり、授業の活性化が図られている。 ICTの活用、協働的な学びは推進できており、今後は、学びを深めるため探究型の授業実践が求められる。 家庭学習時間が少ないことから、授業だけに終始せず家庭学習につなげる工夫が必要である。 授業によって生徒の学びに向かう姿勢に差が見られることから、引き続き教員の指導力の向上が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科会議の充実を図り、授業改善に向けたモデル授業等の取組の共有を図ることで、科全体(学校全体)の授業力向上を図る。授業研究会など、教科ごとに学習指導案を作成し、最大限に教科の特性を生かせる授業を学校全体で共有する。 単元に1回程度、考察を深める探究的な学習の場を設定し、互見授業として全体での研修の機会とする。 作成した指導案教材等はアーカイブ化し、全体での共有を図る。 家庭学習での習慣を確立するため、タブレットを活用した毎日課題としての一問一答など家庭学習を習慣づける取組を推進する。 資格取得など、ぜひ合格したいという意識を高め、合格での成功体験や、学びが将来の力として身につくことを実感させるきっかけをつくり、学習習慣を確立する。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 いじめ・不登校対応に即座に対応し、スクールカウンセラー等と連携できる体制が構築されている。 学校全体が落ち着いた様子で、学校生活を送るうえで生徒の安心感につながっていることは評価できる。 安定した組織的対応ができていることから、生徒面談をさらに充実させた安心・安全な学校づくりを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続してSCやSSWとの連携を図り、個別事案に応じた「いじめ防止対策委員会」や「ケース会議」への参画を通じ、専門的知見を活かした多角的な支援体制を維持する。 いじめ等の諸課題に対し、担任一人で抱え込むことなく、学年・相談部・管理職が一体となった「いじめ防止対策委員会」を中心とする組織的対応を徹底し、客観的かつ迅速な判断と指導を行う。 月1回のGoogleフォームを活用した「自宅回答型アンケート」を継続実施し、周囲の目を気にせずSOSを発信できる環境を整えることで、いじめの早期発見・早期対応の精度をさらに高める。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 自転車の通学マナーの指導が徹底されている等、生徒の安全意識を高めるための取組は高く評価できる。 登校時の交通法規の厳守から生徒の規範意識を高めており、今後も継続した取組が期待される。 監視ではなく見守りの観点からの防犯カメラの設置は、事件・事故の原因究明にもつながり、高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 改正道路交通法(自転車への反則金制度)の導入を見据え、交通安全教室の内容を刷新するとともに、月1回の「自転車通学生集会」を継続し、ルールの遵守と規範意識の定着を図る。 計画的な登校指導を継続しつつ、下校時の安全確保については、所轄警察署等の関係機関との連携を強化し、教職員の負担軽減と指導の質を両立させた「持続可能な見守り体制」を構築する。 校内の死角を解消するため防犯カメラを戦略的に増設し、ハード・ソフト両面から生徒の安全・安心を保障する環境整備を推進する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌配置の工夫、部活動顧問の複数名配置、外部指導者の活用など、働き方改革の推進に努めている。 生徒指導事案の減少が教員の生徒と向き合う時間の確保につながり、好循環を生んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌業務や学校行事等の精選・統合を図り、落ち着いた授業環境を整備する。 超勤縮減の取組として、週1回のマイ定時退庁日の設定など、働き方改革を意識した取組を推進する。 衛生管理者と連携し、45時間を超える超勤者への声掛け、面談等の取組を推進する。 部活動を精選し、部活動外部指導者の活用や複数部顧問制を推進することで、生徒と向き合う時間の確保につなげる。
	学校課題の解決に向けた取組等	○定員充足のための取組が行われているか。 ○学校の魅力づくりや魅力発信が行われているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 市内唯一の農業科設置の利点を最大に活かした教育活動による魅力づくりを推進してもらいたい。 普通科と農業の学びを結び付け、特に普通科の探究学習に農業の内容を絡めることを検討してもらいたい。 普通科、農業科とも農学部への進学を推進することにより、学校の魅力の一つになることが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の特色・魅力づくりについて、地域連携の強化により、地域の農業振興に貢献できる学校として魅力を高める。 農学部への進学コース等の設置など、ERとの連携により本校の特色化を推進する。 総合選択科目の農業科目の充実を図り、普通科と農業科の連携した実践を展開、持続可能な農業の普及を目指す。 小中学生を対象とした農業開放講座の企画運営、農業への興味・関心を高める。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 「授業規律の確立」、「学力向上及び進路達成意欲向上」等の明確な学校教育目標のもとで、適切な教育活動が展開されている。その成果から、学校全体が落ち着いた様子で、生徒が学校生活を送ることにつながっている。 生徒は教員に対して親近感を感じており、先生方の日常的な丁寧かつ親身になったの対応が伺え、それが学校の強みとなっている。今後も生徒の支援体制を充実させながら、生徒を見守る観点からの教育活動を継続してもらいたい。 学校全体で積極的に授業改善に取り組んでいることから、生徒にとってわかりやすい授業が実施されているが、依然として授業間の差が認められる。授業改善を通してさらなる学校の活性化を図ることが期待される。 進学実績の低迷が課題である。そのためにも、進学支援体制の再構築に加えて、家庭学習時間の増加に向けた取組を推進してもらいたい。 引き続き農業の学びを核とする魅力化戦略を検討してもらいたい。地域や大学と連携した地域創生に向けた新しい取組への挑戦と農業科設置当初の想いを踏まえた原点に立ち返った教育活動により、さらなる学校の魅力化を期待したい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の評価において、本校が大切にしてきた「授業規律の確立」や「生徒に寄り添う丁寧な指導」が高く評価されたことは、教職員一同の大きな励みとなる。生徒と教員の信頼関係が学校の強みであるという指摘を重く受け止め、今後も「安心・安全な見守り」を基盤とした教育活動を継続する。 進学実績の向上や授業改善の質的均質化については、本校が克服すべき喫緊の課題であると認識している。次年度は、家庭学習の習慣化に向けた具体的な仕組みづくりと、全教員による組織的な授業改善に重点を置き、生徒の進路実現を力強く後押しする。 本校の核である農業(園芸ビジネス科・園芸デザイン科)について、大学や地域と連携した「地域創生」に資する新しい学びを創造し、本校ならではの魅力をさらに磨き上げていく。 スクールポリシー・スクールミッションを踏まえ、教育を通じて地域社会に貢献し、生徒一人ひとりが自信を持って未来に挑戦できるよう、引き続き組織としての改善を推進し、学校目標達成に向けて取り組む。 			